

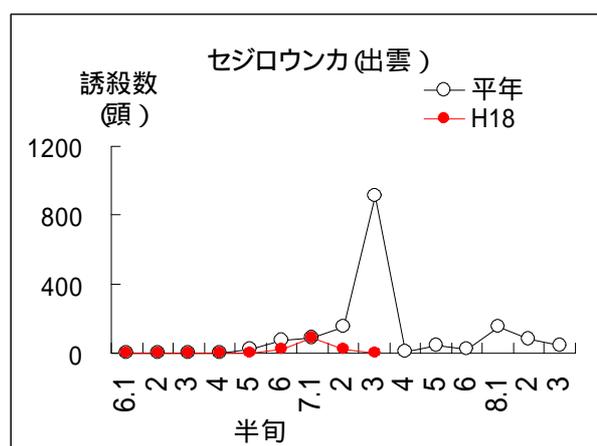
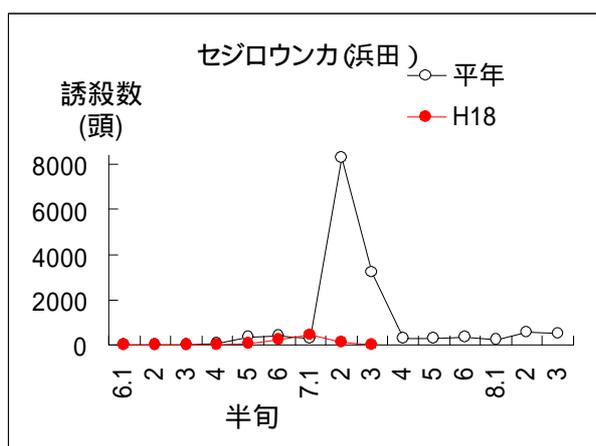
ウンカ情報 No.2

平成18年7月13日付
島根県病害虫防除所

セジロウンカの初飛来は、6月16日に浜田市の誘殺灯で確認しました。以降、少飛来が続きましたが、6月25日、7月4～5日の梅雨前線によりまとまった飛来が確認されています。この時期の飛来量としては平年並みです。

7月11～12日の巡回調査では1.2頭/株の生息密度です。初期飛来群の2～3齢幼虫が圃場内で確認できるようになりました。また、7月の飛来群による黄色～燈色の産卵痕が周囲に比べて葉色の濃い若いイネで多くみられ、今後の幼虫発生に注意が必要です。出穂期を迎えるハナエチゼンなどでは穂への成虫・幼虫の加害に注意してください。

(参考) セジロウンカは飛来数日後から産卵を始めて、卵期間は約1週間、幼虫期間は約2週間、羽化後7～10日間産卵を続けます。飛来群(6/25)を基準とすると、7月5～20日頃が幼虫期となります。



トビロウンカは7月6日に飛来(出雲市)を確認しました。同時期に九州地方では多飛来が観測されています。巡回調査では発生を確認できていませんが、今後の飛来状況に注意してください。

(参考) 例年セジロウンカと同時期に飛来があります。今年は6月中旬頃から福岡県、佐賀県などで飛来が確認され始めています。7月5日前後に梅雨前線の気流から九州(鹿児島、熊本など)に多飛来が確認されました。

防除対策

薬剤による防除は本県農作物病害虫雑草防除指針に基づき適切に行ってください。

次回のウンカ情報は、7月下旬に予定しています。

担当：病虫 G・小塚